

冷やしうどん【かまど係】

かまど係① 【冷やしうどん】 貸し出し物Ⅰ

- ・食缶
- ・竹さいばし
- ・たも
- ・うちわ



かまど係② 貸し出し物Ⅱ

- ・鉄缶
- ・火ばさみ
- ・細薪
(10本程度)



かまど係③ 大釜の準備

- ①大釜と蓋をいろりの家の外で洗う。

注)釜は内側だけ洗い、外側のススは洗わなくてよい。

注)釜の外側のススが服や皮膚に付かないように注意して外に運ぶ。



かまど係④ 大釜の準備

<大釜の洗い場>
いろりの家の四隅にある4カ所の出入口を出たところ。

中の水道からホースを伸ばして洗う。



かまど係⑤ 水張り

- ①水をためる。

洗う時と同様に、水道からホースを使って水をためる。食缶を使って蛇口から水を運んでもよい。



大釜の内枠(赤い線)から15cmほど下が水の量の目安(30~40人)



水の跡が残っているところが目安。

★折り目まで水を入れると激しく吹きこぼれるので注意。

かまど係⑥ 薪組みⅠ

注)軍手を着用すること。

- ①太薪置場から薪を鉄缶一杯分とってくる。
- ②土台になる太薪を2本選び、かまどの両脇に置く。
- ③新聞紙をソフトボールくらいの大きさに丸め、4~5個を太薪の中央に置く。



★土台はしっかりとした薪を選ぶ。

かまど係⑦ 薪組みⅡ

- ①鉄缶に入っていた細薪を、壁などに立てかけて半分に折る。

注)太くて折れない場合は無理をして折らない。



かまど係⑧ 薪組みⅢ

- ①折った細薪を新聞紙の上に置く。

注)なるべく細いものを選ぶ。また、細薪どうしが接点を持つように置くと着火がスムーズになる。



かまど係⑨ 着火

- ①職員からマッチを受け取り、新聞の端に着火する。

注)マッチを擦る生徒は必ず軍手を外すこと。

- ②うちわでやさしく風を送り、火を安定させる。



★着火は素手で！

冷やしうどん【かまど係】

かまど係⑩
沸騰前後

冷やしうどん編①

- ①着火した後、細薪を全部くべたら太薪を組む。
土台をタテに組んでいるので、次はヨコになるように置く。
(…以後タテ・ヨコ・タテになるように)
- ②沸騰し始め、蓋の間から湯気が出たら、
火力が弱まらないように火の番をする。
- ③長天を湯通しする。【調理係が担当】
- ④追加燃料の細薪を半分に折る。
- ⑤麺の投入後の役割分担をしておく。

役割 ①うちわで火力を上げる係 ②細薪を投入する係
③さいばしで麺をほぐす係

かまど係⑫

片付け

- ①大釜にためた水を食缶を使って抜き取る。
- ②2人で運べるくらいまで水が減ったら、大釜と蓋を洗い場まで運び、きれいに洗う。残飯が残っている場合は溝に生ゴミ用ザルを置き、そこで受けるようにする。
- ③かまどの中の灰や炭を掃除用具で掃き出し、灰捨て場に捨てる。
- ④かまどの周囲の掃き掃除をする。
- ⑤大釜の周囲の拭き掃除をする。(かまど用雑巾を使う)
- ⑥センター職員の点検を受ける。

かまど係⑪
麺投入後

冷やしうどん編②

- ①麺を投入したら10分ほどゆでる。
- ②麺のゆで具合を味見する。
(ゆで具合⇒麺全体に火が通っている・芯がなく柔らかい)
※麺が硬かったら、①を続ける。
- ③麺の状態が良ければ、センター職員か指導者がたもを使って麺を大だらいまで運ぶ。【職員・指導者が担当】
- ④火抜き作業をする。⇒「かまど係⑬」火抜き作業参照
- ⑤片づけの説明を聞く
- ⑥調理係が麺を水で締め、配膳する。【調理係が担当】
- ⑦大釜の麺がなくなったら、大釜の残り湯に水を足しておく。

かまど係⑬

火抜き作業

- ①軍手、空の鉄缶、じゅうのう(短)、じゅうのう(長)を準備する。
- ②かまどの中の炭をじゅうのう(短)を使って鉄缶に入れる。
注)鉄缶の1/3までしか入れない。
- ③じゅうのう(長)に鉄缶の持ち手をかけて、つるした状態でい通りの出口まで運ぶ。
注)周りに人がいないか確認・呼びかけをしながら運ぶ。
- ④外で待っている職員に鉄缶を渡し、空になった鉄缶を受け取る。
注)戻る時も同じく、周囲の人に気をつける。
- ⑤かまどの中の炭や灰が9割ほど取れたら完了。